



子どもたちは、この夏休みを利用してキャンプや海水浴、家族旅行等々、普段できない様々な体験をしていることでしょう。体験は子どもを鍛えてくれます。お父さん、お母さんも大変でしょうがしっかりと子どもの思い出作りを手伝ってやってください。大きな行事でなくてもいいのです。また、遠くに出かけることをしなくてもいいのです。親子で一緒に時間を共有することが子どもにとっての

一番の思い出になるのです。

さて、夏休みも後半に入りました。子どもは「もう宿題はすませたよ」と余裕をもって生活をしている子ども、「まだまだこれから」と言う子ども、いろいろなタイプの子どものいます。できれば、与えられたことはできるだけ早く準備をし、すませる子どもに育てたいものです。

歩きスマホについて考える（2）

前号に続いてもう一度、「歩きスマホ」について皆さんと一緒に考えてみましょう。ここに、新聞記事を紹介します。

全盲男性とぶつかり白杖壊す

「歩きスマホ」やめて！

東京都八王子市の京王八王子駅前の路上で今月3日、点字ブロックの上を歩いていた全盲の男性が通行人と正面からぶつかり、白杖が壊れた。杖を拾おうとかがんだところ、男の声で「目が見えないのに1人で歩くな」と言われ、右足を蹴られたという。けがはなかったが、相手はそのまま立ち去ったという。

被害に遭ったのはNPO法人「八王子視覚障害者福祉協議会」副理事長で市内に住む宮川純さん。3日午前8時ごろ、JR八王子駅前でバスを降り、歩いて職場の福祉事務所に向かう途中だった。予備の杖を使って職場につくことができた。

宮川さんはぶつかった直後にスマートフォンが落ちたような音を聞いた。毎日新聞の取材に「もし『歩きスマホ』なら絶対にやめてほしい。白杖がなければ外を一步も歩けない人がいることを分かって欲しい」と訴えた。

社会福祉法人「日本盲人会連合」は6月、駅の安全対策として「歩きスマホの禁止」などに取り組むように国土交通省に陳情している。 (2019.7.6)

新聞に掲載された後日、テレビでも放送していただきましたので、テレビでも見られた方もおられるでしょう。この事件に腹立たしさを感じるのは私だけではないでしょう。

このように、都会では歩きスマホによる衝突でトラブルになることがあると聞いています。この事案は歩きスマホによる事故ではなかったのかも知れませんが、状況からして歩きスマホをしていた可能性は非常に高いことが考えられます。健常者であれば近づいてくる人をうまく避けることはできますが、全盲者の人はなかなか避けることは困難なことでしょう。当然健常者に比べ、ぶつかるという危険性は大きくなるのです。まして歩きスマホはもってのほかです。

全盲の人でも、安全に外に出て活動できる社会にしなければならないこと、また障害者にとって優しい社会を作ることが大切だということはこの記事から考えさせられました。